

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた単元構想 <小・社会>

特別研修員 社会 佐々木 大介 (小学校教諭)

単元名 『ごみのしよりと利用』 (第4学年) 全10時間計画
単元のねらい

社会的事象の見方・考え方を働かせ、ごみの処理と利用に関する問題を追究・解決する活動を通して、ごみの処理の仕方やリサイクルの仕方を理解し、学んだことを社会生活に生かすことができるようにする。

学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導の工夫を取り入れた単元構想

社会的事象に興味・関心をもてるように、驚きのある資料や課題意識の高まるクイズを提示し、児童が主体的に学習に取り組めるようにします。つかむ過程では、ごみの排出量に関する資料を提示し、児童に驚きを与え、ごみをどのように処理しているのか疑問をもてるようにします。追究する過程では、清掃センターやリサイクルプラザの見学を生かし、ごみの処理に関する資料を精選し提示します。まとめる過程では、単元の課題に対する結論を導き出すとともに、これまでの学習を社会生活に生かせるように、選択・判断として行動宣言を作る活動を取り入れる構成にしました。

過程	主な学習活動	興味・関心をもたせる資料
つかむ (3)	<p>1. 単元の課題を把握する。 ごみの量に関するクイズや資料などを基に、疑問や調べたいことを話し合い、単元の課題を立てる。</p> <p>たくさんのごみは、どのように処理されたりリサイクルされたりしているのだろう。</p> <p>単元の課題に対する予想を出し合い、それを確かめるための調べる計画を立てる。</p> <p>太田市清掃センターの見学で調べたり質問したりすることを話し合う活動を通して、単元の課題を解決するために必要な情報を集める。</p>	<p>ごみに関するクイズや驚きのある資料を掲示し、児童に興味・関心を高めさせるとともに、本単元で、学ぶ内容とつながりのある資料を用意する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>正解は・・・</p> <p>C 約1kg</p> <p>一年間の量は 約4500万トン 25mプール 約42万杯分</p> <p>一人が一日に出すごみの量 (日本全国の平均) : 約1kg</p> </div>
追究する (5)	<p>2. 単元の課題の解決に向け、単位時間ごとに追究をする。 <児童の意識></p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>太田市清掃センターやリサイクルプラザを見学して、ごみが処理される仕組みを調べる。</p> <p>燃えるごみのゆくえを調べ、大量のごみが処理される仕組みを理解する。</p> <p>燃えないごみのゆくえを調べ、燃えないごみが処理される仕組みを理解する。</p> <p>資源ごみのゆくえを調べ、資源ごみが処理される仕組みを理解する。</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>清掃センターでは、ごみを燃やして処理しているのだな。もっと詳しく知りたいな。</p> <p>ごみを処理するために、三つの焼却炉で燃やしているのだな。多くの費用が掛かっているのも驚いたな。</p> <p>アルミや鉄は再利用され、残ったものは、最終処分場に運ばれて、埋められているのだな。</p> <p>余計な物が入っていると、働いている人が取り除いていることに驚いたな。これからも、分別してごみを出すようにしたいな。</p> </div> </div>	<p>児童の思考の流れがわかるワークシート</p> <p>単元を通して、同じ形式のワークシートを使えるようにした。</p> <p>資料から読み取ったことを基に、児童の言葉を使いながら、本時のまとめを行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ごみのしよりと利用 もえるごみのゆくえ (P112、113) 単元の課題 たくさんのごみは、どのようにしよりされたり、リサイクルされたりしているのだろう。 めあて</p> <p>☆坂藤さんの話 (P112) や資料を見て、分かったことや気づいたこと、思ったことを書こう!</p> <p>個人で読み取った内容を記入する。</p> <p>クラス全体で共有した内容を記入する。</p> <p>共有した内容を使って、本時のまとめを記入する。</p> <p>ふり返り</p> </div>
まとめる (2)	<p>3. 単元の課題についてまとめる。 単元の課題の結論を考える活動を通して、ごみを処理する仕組みやリサイクルの仕組み、ごみを減らすことの大切さを理解する。太田市のごみを減らす取組や4R運動を基に、自分たちができる行動宣言を作る活動を通して、ごみを減らす必要性を理解する。</p> <p>学校で行っているリサイクルペーパーや牛乳パックの片付けも大切なことなのだ。ごみを減らすために、たくさんの工夫があったね。自分たちも環境を守るために、できることをしていこう。これからもごみの分別、リサイクルをしていきたいな。</p>	<p>選択・判断を取り入れたまとめ</p> <p>袋やストローなどをスーパーでもらわずに、マイバッグやマイストローを持ちます。 給食を残さずに食べます。 【児童のワークシートより】</p> <p>行動宣言を作る活動を通して、社会生活で学びをどのように生かすか考えられるようにする。</p> <p>使えるものは、最後まで使い、使わないものは買わないし、勧められても断ります。</p> <p>【行動宣言の発表の様子】</p>

指導例：『ごみのしよりと利用』（第4学年 第1時）

1 本時のめあてをつかむ。

○生活していく中で、毎日出しているものは何かを考える。

T：生活していく中で、毎日出しているものは何だろう。

S：ごみです。

T：ごみには、どんなものがありますか。

S：燃えるごみ。生ごみ。燃えないごみもあるよ。

めあて ごみに関する資料を基に、疑問や調べたいことを話し合い、単元の課題を立てよう。

2 一人一人が、本単元の社会的事象に関わる資料を基に、疑問や調べたいことを考える。

○ごみに関するクイズや写真資料から、疑問や調べたいことを記述する。

T：人が一日に出すごみの量は、どれくらいだろう？

S：5kgくらいかな。

S：500gくらいじゃない。

T：正解は、1kgです。

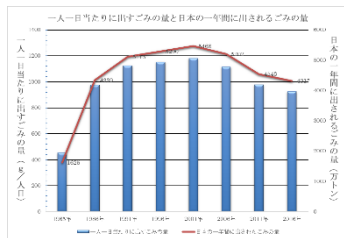
S：そんなに出してない。

T：ちなみに、日本は一年間で4500万トンのごみを出しており、その量は25mプール42万杯分です。

S：そんなにたくさんごみが一年間で出ているの。

S：でも、町にごみはそんなにないよ。どうしてかな。

S：僕たちが出しているごみは、どこに行っているのかな。



夢の島（東京）昔（1965年）と現在

3 学級全体で、ごみの処理についての疑問や調べたいことの共有や焦点化を図る。

○ごみについての疑問や調べたいことを発言する。

T：ごみについて、疑問や調べたいことを発表しましょう。

S：たくさんのごみは、どうやって片付けられているのかな。



【疑問や調べたいことの発表の様子】

S：同じ場所なのに、昔と今でこんなに違うのはなぜだろう。

S：ごみの出し方がこんなに細かく分けられているのはなぜだろう。

○板書の内容を基に「毎日出るたくさんのごみ」「ごみはどこに行くのか？」「ごみはどうやって片付けられているのか？」「リサイクル」「分別」などのキーワードを共有する。

4 本時のまとめとして単元の課題を立て、一人一人が学習の振り返りをする。

○共有したキーワードを基に、単元の課題を文で表し、まとめる。

単元の課題
たくさんのごみは、どのようにしよりされたり、リサイクルされたりしているのだろう。

○本時の振り返りをする。

☆ごみはこんなにもたくさん出ているのだな。この量をどうやって片付けているのだろう。少しずつごみの量が減ってきているのは、なぜだろう。調べてみたいな。

指導のポイント

学習内容への意識付け

○これから何について学ぶかを意識させる発問をすることで、本単元の学習内容について見通しをもたせる。

驚きのある資料提示

○児童にとって驚きや意外性のある資料を精選して提示し、ごみについて、疑問や調べたいという意識をもたせる。

「単元の課題」に向けた共有や焦点化

○児童の言葉を基に単元の課題を設定できるようにするために、児童の疑問や調べたいことについての発言を板書し、その中のキーワードを共有できるようにする。

単元の課題の設定

○共有したキーワードを基に話し合い、単元の課題を児童の言葉でまとめられるようにする。

本時の振り返りの視点

○習得した知識や参考になった友達の見解、次時に調べてみたいことを記述させることで、本時の振り返りをさせる。

指導例：『ごみのしよりと利用』（第4学年 第8時）

指導のポイント

1 本時のめあてをつかむ。

○資源ごみがどのようなものか考える。

○日本の資源ごみが輸出される割合を考える。

T：日本の資源ごみは、どれくらい海外に輸出されているのだろうか？60%、80%、100%から選ぼう。

S：80%かな。いや、もっと少ないかもしれないな。

T：正解は、60%。資源として使えるもののうち、60%が海外に送られています。でも、リサイクルされずに海に捨てられてしまうごみも多いです。

S：資源として使えるものを海外に送っていいのかな？太田市はどうしているのかな。見学の時に、説明してくれていたな。

めあて リサイクルプラザでは、どのようにして資源ごみを処理しているのだろう。

めあての設定

○毎時間、単元の課題を意識できるように、パワーポイントで掲示したり、ワークシートに記入させたりする。

課題意識の高まるクイズ

○児童が驚きをもち、興味をもって本時の学習に取り組めるように、課題意識が高まるクイズを準備する。

2 一人一人が、解決に必要な情報を集め、読み取る。

○見学で調べたことや「しげんごみと、もえないごみのしよりのゆくえ」「リサイクルプラザで修理されたもの」の資料から、分かったこと、気付いたこと、思ったことなどをワークシートに記述する。

T：資源ごみは、どのように処理されていたかな？

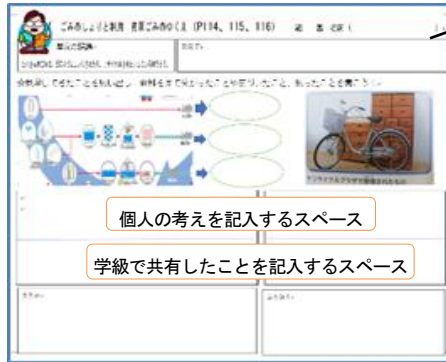
S：種類ごとに分けられていました。

S：鉄などは圧縮されていたよ。

T：自転車やタンスはどうしたのだろうか？

S：使えるものは修理します。

S：使えないものは、鉄やアルミを取り出します。



ワークシートの工夫

○単元を通して、同じ形式のワークシートを使えるようにした。

○資料から読み取ったことを基に、児童の言葉を使いながら本時のまとめを行えるように、個人で記入するところ、学級で共有したことを記入するところの両方を記入できるスペースを確保する。

3 学級全体で整理した情報を基に考察する。

○出し合った意見について、学級全体で共通点に着目しながら、本時のめあてとのつながりを話し合う。

T：調べたことを話し合しましょう。

S：カンは再利用されている。

S：ペットボトルや白色トレイなどは、いろいろな製品に変わっているよ。

S：ピンは色ごとに分けられていたな。

T：資源ごみは、どのように処理されているのだろう。

S：汚れたものは取り除かれ、種類ごとに分けて再生工場に送られている。

学級全体で共有・焦点化

○資料から分かったことや気付いたことを出し合い、共通点に着目しながら、本時のめあてとのつながりを考えられるようにする。

4 本時のまとめをし、一人一人が学習の振り返りをする。

○学級で共有したこと（資源ごみが人の手によって分別され、再生工場に送られていること）を基に、まとめを書く。

まとめ

資源ごみは、汚れたものは取り除き、種類ごとに分けて再生工場に送られて、再利用されている。つまり、ごみを出すときには分別することが大切である。

児童の発言を生かしたまとめ

○児童の発言に問い返したり、追究した社会的事象の特色や意味について確認したりしながら、本時のまとめを学級全体で共有できるようにする。

○本時のめあてを意識した学習の振り返りをする。

☆分別してごみを出すと、リサイクルされて新しい製品に生まれ変わるのだ。これからも無駄にならないように分別してごみを出すようにしたいな。

本時の振り返りの視点

○分かったことや驚いたことなどを意識した振り返りをするよう、助言する。

指導例：『ごみのしよりと利用』（第4学年 第10時）

1 本時のめあてをつかむ。

○学習してきたごみの処理が抱える処理場の不足や焼却による環境汚染の資料などを提示し、これからの社会について考える。

T：日本の埋め立て地は、あとどれくらいで使えなくなるのだったかな？

S：あと、20年後です。

T：最近問題になっているごみ問題には、どのようなものがあった？

S：海にごみが捨てられていて、海の生物がのみこんでしまいます。

T：このままいくと、どうになってしまうかな？

S：ごみがあふれてしまうかもしれない。

T：じゃあ、何ができるか考えてみよう。

めあて ごみを減らすために、自分たちができることを考え、行動宣言を作ろう。

2 一人一人が、社会との関わり方や改善策を考える。

○ごみを減らすために、自分ができることを考え、行動宣言を作る。その際、なぜその行動宣言にしたのか、理由も考える。

T：ごみを減らすために、自分たちができることは何だろう？

S：エコバッグを使う。

S：使える物は、すぐに捨てない。

S：使えそうな物は修理する。

T：修理して使う理由はなぜ？

S：ごみが減るし、環境にもよいからです。

ごみを減らすために自分たちができることは何だろう
・きちんと分別する。・ごみを出さないようにする。・4R運動をする。使えるものは大切に使う。・いらぬものは必要としている人にあげる。・エコバッグを使って買い物をする。 【児童のワークシートより】

行動宣言の理由

・少しでもごみを減らして、環境をよくするため。
・使えそうなものは修理すれば、ごみが減るから。 【児童のワークシートより】

3 学級全体で社会との関わり方や改善策を話し合う。

○一人一人が記述したことを伝え合う。

○伝え合った行動宣言が実現可能か、社会への貢献度が高いかなどを考え、グループの友達にアドバイスする。

S：プラスチックごみが出るから、お弁当を買いません。

S：お弁当を買わないのは難しいよ。ご飯を残さないのはどうかな？

S：そうだね。食べ物を残さないこともごみの減量につながるよね。

4 本時のまとめをし、一人一人が学習の振り返りをする。

○グループで話し合った気づきを基に、最終的な自分の行動宣言を作る。

T：どんな行動宣言になったかな？

S：「使える物は最後まで使う」に、「使わぬ物は買わないし、勧められても断ります」を付け足しました。

行動宣言

いらなくなった紙はリサイクルペーパーに出し、リサイクルにできるだけ協力する。 【児童のワークシートより】

○「ごみの処理の仕方について何を学んだか」「学んだことを社会生活でどのように生かすか」などの視点を基に、単元全体の振り返りをする。

☆学校で行っているリサイクルペーパーや牛乳パックの片付けも大切なことなのだ。ごみを減らすために、たくさん工夫があったね。自分たちも環境を守るために、できることをしていこう。これからも、ごみの分別、リサイクルをしていきたいな。

指導のポイント

めあての設定

○今まで行ってきた導入時のクイズを振り返ることで、ごみの処理が抱える諸問題を思い出せるようにする。

○本時が、そうした諸問題を解決するために、自分たちができることを考える時間だと確認する。

学習内容を振り返る工夫

○児童が各単位時間で学習してきたことを振り返ることができるように、ICT機器を活用し、プレゼンテーションなどで提示する。

多面的・多角的な思考の形成

○これまでの学習を基に、自分ができることを考え、行動宣言を作るようにする。

○理由を考えさせることで、ごみに関する諸問題を身近な問題として捉え、解決するためにどうすればよいかを真剣に考えられるようにする。

○個人で考えたことを、発表させることで、多様な意見に気づき、考えを深められるようにする。

○友達のアドバイスを聞くことで、実現可能か、ごみの諸問題を解決することにつながるかを確認できるようにする。

単元全体の振り返り

○学びの価値付けをするために一人一人が振り返る時間を確保する。

○自分が考えた行動宣言を確認することで、「何を学んできたか」「これからの生活でどのように生かすか」を意識した振り返りができるようにする。

社会科学学習指導案

令和元年10月 第4学年 指導者 佐々木 大介

I 単元名 住みよいくらしをつくる「②ごみのしよりと利用」

II 学習指導要領上の位置付け

(2) 人々の健康や生活環境を支える事業について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(イ) 廃棄物を処理する事業は、衛生的な処理や資源の有効利用ができるよう進められていることや、生活環境の維持と向上に役立っていることを理解すること。

(ロ) 見学・調査したり地図などの資料で調べたりして、まとめること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(イ) 処理の仕組みや再利用、県内外の人々の協力などに着目して、廃棄物の処理のための事業の様子を捉え、その事業が果たす役割を考え、表現すること。

III 目標

廃棄物を処理するための事業の様子や、廃棄物処理に関わる対策について、追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 廃棄物を処理する事業は、衛生的な処理や資源の有効利用ができるよう進められていることや、生活環境の維持と向上に役立っていることを理解している。(知識・技能)

イ 処理の仕組みや再利用、県内外の人々の協力などに着目して、廃棄物の処理のための事業の様子を捉え、その事業が果たす役割を考え、表現している。(思考力、判断力、表現力等)

ウ 廃棄物処理に関わる対策や事業に関心をもち、単元の課題を予想し学習計画を考えたり、意欲的に調べたりして、学んだことを社会生活に生かそうとしている。

(学びに向かう力、人間性等)

IV 指導計画 ※別紙参照

V 本時の展開（1/10）

- ねらい ごみに関するクイズや写真資料、ごみの量の資料などを基に、疑問や調べたいことを話し合い、単元の課題を立てる活動を通して、ごみがどのように処理されているのかについて、追究する意欲をもてるようにする。

2 展開

学習活動（分）	○：留意点	点線囲：評価	☆：振り返りの子供の意識
1 本時のめあてをつかむ。（10分）	○生活していく中で、毎日出しているものは何か考えるよう促す。 ○ごみの量に関するクイズを通して、ごみについて学習していくことや、本時が「ごみのしよりと利用」の学習について単元の課題を設定する時間であることを確認させる。		
めあて ごみに関する資料を基に、疑問や調べたいことを話し合い、単元の課題を立てよう。			
2 一人一人が、本単元の社会的事象に関わる資料を基に、疑問や調べたいことを考える。（10分）	○「一人一日当たりに出すごみの量と日本の一年間に出されるごみの量」「夢の島（東京）の昔（1965年）と現在」「家庭ごみの分け方と出し方」の資料を提示し、そこから考えたことや疑問に思ったこと、調べてみたいことなどを記述するよう促す。		
3 学級全体で、ごみの処理についての疑問や調べたいことの共有や焦点化を図る。（15分）	○資料を見て考えたことや疑問に思ったこと、調べてみたいことなどを発言するよう促す。 ○発言内容の共通点などを確認したり、その理由を問い掛けたりする。 ○板書の内容を基に「毎日出るたくさんのごみ」「ごみはどこに行くのか？」「ごみはどうやって片付けられているのか？」「リサイクル」「分別」などのキーワードを共有させる。		
ごみに関する資料の読み取りや比較を基に、疑問や調べたいことを記述したり、発言したりしている。 <ワークシート・発言（1）>			
4 本時のまとめとして単元の課題を立て、一人一人が学習の振り返りをする。（10分）	○ごみの処理について、共通して解決すべきことを問い掛ける。 ○キーワードを基に、単元の課題を文で表し、板書する。		
【単元の課題】 たくさんのごみは、どのように処理されたりリサイクルされたりしているのだろう。			
○本時の振り返りとして、ごみについて初めて知ったことや不思議に思ったこと、特に調べてみたいことなどを記述・発言するよう促す。			
☆ごみはこんなにもたくさん出ているのだな。この量をどうやって片付けているのだろう。少しずつごみの量が減ってきているのは、なぜだろう。調べてみたいな。			

V 本時の展開 (8/10)

- ねらい 資源ごみのゆくえを調べる活動を通して、資源ごみが処理される仕組みを理解できるようにする。
- 展開

学習活動 (分)	○ : 留意点	点線囲 : 評価	☆ : 振り返りの子供の意識
<p>1 本時のめあてをつかむ。(5分)</p> <p>○単元の課題や学習計画、前時までの学習内容を想起させ、「資源ごみ」はどのようなものか、考えさせる。</p> <p>○学習計画の中で、「資源ごみ」はどのように処理されているのか、予想したことを確認し、解決の方法を問い掛ける。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">めあて リサイクルプラザでは、どのようにして資源ごみを処理しているのだろう。</div>			
<p>2 一人一人が、解決に必要な情報を集め、読み取る。(20分)</p> <p>○見学で調べたことや「しげんごみと、もえないごみのしよりのゆくえ」の資料から、分かったこと、気付いたこと、思ったことなどをワークシートに書かせる。</p> <p>○一人一人が集め、読み取った資源ごみのゆくえなどの情報を小グループで伝え合うよう助言する。</p>			
<p>3 学級全体で、整理した情報を基に考察する。(10分)</p> <p>○資料から読み取った情報を基に、ペットボトル、紙パック、ビンが、どのようにリサイクルされているのか(方法)、どのようなものになっているのか(事実)を区別して、学級全体で交流させる。</p> <p>○出し合った意見について、学級全体で共通点に着目しながら、本時のめあてとのつながりを話し合わせる。</p> <p>○話合いの内容を線や矢印を活用して構造的に板書する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;">リサイクルプラザで見学してきたことや資料を基に、資源ごみが様々なものに再生されていることについて記述したり、発言したりしている。<ワークシート・発言(4)></div>			
<p>4 本時のまとめをし、一人一人が学習の振り返りをする。(10分)</p> <p>○資源ごみが人の手によって分別され、再生工場に送られていることを確認し、「つまり」などの言葉掛けをしながら、児童の発言を基に、まとめの言葉を板書する。</p> <p>○資源ごみがリサイクルされていることについて、分かったことや驚いたことなどを意識した振り返りをするよう促す。</p> <p>☆分別してごみを出すと、リサイクルされて新しい製品に生まれ変わるのだな。これからも、無駄にならないように分別してごみを出すようにしたいな。</p>			

V 本時の展開 (10/10)

1 ねらい 太田市のごみを減らす取り組みや4R運動を基に、自分たちができる行動宣言を作る活動を通して、ごみを減らす必要性の理解を深め、その意欲を高められるようにする。

2 展開

学習活動 (分)	○ : 留意点	点線囲 : 評価	☆ : 振り返りの子供の意識
<p>1 本時のめあてをつかむ。(5分)</p> <p>○本単元で解決してきた単元の課題の結論を問い掛ける。</p> <p>○学習してきたごみの処理が抱える処理場の不足や焼却による環境汚染の資料などを提示し、これからの社会について、予測させる。</p> <p>○本時がごみを減らすための行動宣言を作る時間であることを確認させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">めあて ごみを減らすために、自分たちができることを考え、行動宣言を作ろう。</div>			
<p>2 一人一人が、社会との関わり方や改善策を考える。(10分)</p> <p>○これまでの自分の生活を考えさせ、ごみをどのように出していたか想起させる。</p> <p>○ごみを減らすために、自分ができることを考え、行動宣言を考えさせる。その際、なぜその行動宣言にしたのか、理由も考えるよう助言する。</p>			
<p>3 学級全体で、社会との関わり方や改善策を話し合う。(20分)</p> <p>○一人一人が考えた行動宣言を小グループで伝え合うよう助言する。</p> <p>○伝え合った行動宣言が実現可能か、社会への貢献度が高いか、などについて考えるよう助言する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;">ごみを減らす必要性を理解し、自分たちができることを行動宣言として記述したり、表現したりしている。<行動宣言・発言(1)></div>			
<p>4 本時のまとめをし、一人一人が学習の振り返りをする。(10分)</p> <p>○グループで話し合っただけ気付いたことを発表するように促す。</p> <p>○グループで話し合った気づきを基に、最終的な自分の行動宣言を再決定させる。</p> <p>○「ごみの処理の仕方について何を学んだか」「学んだことを社会生活でどのように生かすか」などの視点に基づいて、単元全体の振り返りをさせる。</p> <p>☆学校で行っているリサイクルペーパーや牛乳パックの片付けも大切なことなのだ。ごみを減らすために、たくさんの工夫があったね。自分たちも環境を守るために、できることをしていこう。これからも、ごみの分別、リサイクルをしていきたいな。</p>			

指導計画 社会科 第4学年 単元名：住みよいくらしをつくる「②ごみのしよりと利用」（全10時間計画）

目標	廃棄物を処理するための事業の様子や、廃棄物処理に関わる対策について、追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 (1) 廃棄物を処理する事業は、衛生的な処理や資源の有効利用ができるよう進められていることや、生活環境の維持と向上に役立っていることを理解している。(知識・技能) (2) 処理の仕組みや再利用、県内外の人々の協力などに着目して、廃棄物の処理のための事業の様子を捉え、その事業が果たす役割を考え、表現している。(思考力、判断力、表現力等) (3) 廃棄物処理に関わる対策や事業に関心を持ち、単元の課題を予想し学習計画を考えたり、意欲的に調べたりして、学んだことを社会生活に生かそうとしている。(学びに向かう力、人間性等)		
評価規準	(1) ごみの処理に関わる対策や事業、ごみを減らそうとしている人々の活動について、関心をもって調べ、自分からもごみの減量や資源の再利用などの取組に協力しようとする。 (2) ごみの処理に関わる対策や事業について、単元の課題の予想や学習計画を考えたり、的確に見学・調査したりして必要な情報を集め、それを基に思考・判断したことを適切に表現している。 (3) ごみの処理に関わる対策や事業について、的確に見学・調査し、具体的資料を活用して、必要な情報を集めて読み取ったり、まとめたりしている。 (4) ごみの処理に関わる対策や事業は、地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていること、また、これらの諸活動に関心を持ち、地域社会の一員としてよりよい生活環境を考えることの重要性を理解している。		
過程	時間	○ねらい ㊟あて	☆振り返り（意識） ◇評価項目 <方法（観点）>
つかむ	1	○ごみに関するクイズや写真資料、ごみの量の資料などを基に、疑問や調べたいことを話し合い、単元の課題を立てる活動を通して、ごみがどのように処理されているのかについて、追究する意欲をもてるようにする。 ㊟あて ごみに関する資料を基に、疑問や調べたいことを話し合い、単元の課題を立てよう。 単元の課題 たくさんのごみは、どのように処理されたりリサイクルされたりしているのだろうか。	☆ごみはこんなにもたくさん出ているのだな。この量をどうやって片付けているのだろうか。少しずつごみの量が減ってきているのは、なぜだろう。調べてみたいな。 ◇ごみに関する資料の読み取りや比較を基に、疑問や調べたいことを記述したり、発言したりしている。 <ワークシート・発言(1)>
	1	○単元の課題に対する予想を出し合い、それを確かめるための調べる計画を立てる活動を通して、解決の見通しをもてるようにする。 ㊟あて 単元の課題を解決する方法や調べる計画を立て、予想しよう。	☆たくさんのごみを処理するのに、どれくらい時間がかかっているのかな。分けられたごみはどうなるのかな。 ◇単元の課題の予想を考え、学習計画を立てている。 <ノート・発言(1)>
	1	○太田市清掃センターの見学で調べたり質問したりすることを話し合う活動を通して、単元の課題を解決するために必要な情報を集めることができるようにする。 ㊟あて 見学の時に、単元の課題を解決するために調べることを考えよう。 <調べる内容> ・燃えるごみの処理の仕組み ・燃えないごみの処理の仕組み ・資源ごみの処理の仕組み	☆清掃センターでごみは、どのようにして片付けられているのかな、どのようにリサイクルされているのかな。 ◇しおりの中に、知りたいことや質問したいことなどを記述したり、発言したりしている。 <しおり・発言(3)>
追究する	2	○太田市清掃センターを見学したり働いている人に聞き取り調査をしたりする活動を通して、課題の解決に必要な情報を集め、まとめることができるようにする。 ㊟あて 太田市清掃センターを見学して、ごみが処理される仕組みを調べよう。	☆清掃センターでは、ごみを燃やして処理しているのだな。分別しないと、焼却炉を傷めてしまうことにも驚いたな。ごみの処理の仕方について、もっと詳しく知りたいな。 ◇太田市清掃センターを見学し、聞いたことや見てきたことをまとめている。 <しおり・発言(3)>
	1	○燃えるごみのゆくえを調べる活動を通して、大量のごみが処理される仕組みを理解できるようにする。 ㊟あて 太田市清掃センターでは、どのようにして燃えるごみを処理しているのだろうか。	☆ごみを処理するために、三つも焼却炉があって、1日に320トンも燃やしているのだな。多くの費用が掛かっているのも驚いたな。環境のためにもごみを減らさないといけないね。 ◇太田市清掃センターで見学してきたことや資料を基に、大量のごみが処理される仕組みについて記述したり、発言したりしている。 <ワークシート・発言(4)>
	1	○燃えないごみのゆくえを調べる活動を通して、燃えないごみが処理される仕組みを理解できるようにする。	☆燃えないごみは、使えるものと使えないものに分けているのだな。砕かれて、 ◇リサイクルプラザで見学してきたことや資料を基に、燃えないごみが再利用

追究する		リサイクルプラザでは、どのようにして燃えないごみを処理しているのだろう。	アルミや鉄は再利用されているのにも驚いたな。残ったものは、最終処分場に運ばれて、埋められているのだな。	されたり埋め立てられたりして処理されていることについて記述したり、発言したりしている。 <ワークシート・発言(4)>
	1	○資源ごみのゆくえを調べる活動を通して、資源ごみが処理される仕組みを理解できるようにする。 リサイクルプラザでは、どのようにして資源ごみを処理しているのだろう。	☆ペットボトルが軍手や服などになるとは思わなかったな。ペットボトル以外のものが入っていると、働いている人が取り除いているなんて知らなかったな。これからも、分別してごみを出すようにしたいな。	◇リサイクルプラザで見学してきたことや資料を基に、資源ごみが様々なものに再生されていることについて記述したり、発言したりしている。 <ワークシート・発言(4)>
まとめ	1	○単元の課題の結論を考える活動を通して、ごみを処理する仕組みやリサイクルの仕組み、ごみを減らすことの大切さを理解できるようにする。 どのような仕組みで、ごみが処理されたりリサイクルされたりしているのか、まとめよう。	☆燃やされたごみがスラグになって、道路の材料に利用されているのには驚いたな。埋立地が年々減ってきているから、ごみの量を減らすようにしよう。	◇ごみが処理されるまでの仕組みやリサイクルの仕組み、ごみを減らすことの大切さを記述したり、表現したりしている。 <ノート・発言(2)>
	1	○太田市のごみを減らす取組や4R運動を基に、自分たちができる行動宣言を作る活動を通して、ごみを減らす必要性の理解を深め、その意欲を高められるようにする。 ごみを減らすために、自分たちができることを考え、行動宣言を作ろう。	☆学校で行っているリサイクルペーパーや牛乳パックの片付けも大切なことなのだ。ごみを減らすために、たくさんの工夫があったね。自分たちも環境を守るために、できることをしていこう。これからも、ごみの分別、リサイクルをしていきたいな。	◇ごみを減らす必要性を理解し、自分たちができることを行動宣言として記述したり、表現したりしている。 <行動宣言・発言(1)>